

平成 24 年 2 月 16 日発売の某週刊誌の 記事に対する見解について

平成 24 年 2 月 16 日発売の某週刊誌に、国立がん研究センターの理事長選考に関する記事が掲載された。その記事の内容に対する見解を述べる。

改革の成果に関する記載は適切な評価になっていると考えるが、バランスを取るためか、当該記事において、題として「国立がん研究センターの理事長選考」としておきながら、その内容については個人の人格を非難するものであり残念としか言いようがない。

勝海舟の語録に次の言葉がある。

行蔵は我にあり、
毀誉は他人の主張、
我に与（あずか）らず我に関せずと存じ候

行った事物がその人の価値であり、他人がどのように批評しようが、自分とは関係がないものだと言い切った言葉である。

また、平成 24 年 2 月 8 日発売の週刊文春の「阿川佐和子のこの人に会いたい」における対談の中で、稲盛和夫氏（日本航空会長）は、次のような発言をしている。

自分で責任を取らない人たちから勝手なことを言われても、私は聞く耳持たない。

今回の某週刊誌の記事のように、人格非難は批判するに値しないものである。当該週刊誌は、2011 年 6 月 9 日発売のものでも同じ出来事を出して、同様の内容の記事を掲載しており、当センターはそれに対してエビデンスをもってその内容に客観性がないことを示し反論をしたところである。このような記事が繰り返し掲載されることについて、個人的な感情を元に記事を書いていると感じざるを得ない。

“人望がなかった”と記載があるが、それは改革に反対する者達から見た偏った視点であり、国立がん研究センターを改革していこうとする真に我が国のがん医療をより良くしていこうと志す者達からすれば、全く異なる評価になる。

このように大変残念な記事が記載されることがあったとしても、「All Activities for Cancer Patients（職員の全ての活動はがん患者のために!）」という標語のもとで努力している国立がん研究センターの姿勢は決して変わらないものと考えている。

当センターが、この 2 年間で行ってきた改革については全て情報公開しており、この機会にぜひ国立がん研究センターのホームページをご覧ください。

平成 24 年 2 月 16 日

国立がん研究センター理事長 嘉山 孝正